

計算科学を基盤とした産業競争力強化の検討小委員会
第25期・第2回 会議議事録

日 時 令和3年 6月30日(火) 15:00~17:00

会 場 オンライン会議

出席者 佐々木直哉、金田千穂子、青木伸俊、青柳岳司、井手貴範、宇佐見護、大出真知子、
大野隆央、越塚誠一、白鳥正樹、萩原一郎(敬称略)

議事

(1) 前回の議事録確認

議事録が確認された。

(2) 提言内容(案)に関する議論

佐々木委員長より提言(案)要旨と本文の読み上げを実施。

以下の議論があった。

- 提言は誰に対して行うのか?
→提言先は一般的には国を考えている
- インキュベーション組織や評価システム・指標の創設を国に依頼する?
- 依頼するなら具体的な実行可能な案が必要
- 人材評価は国ではなく民間自身が担うべきでは

- 新たな評価システム作りはどうあるべきか?
- IF(インパクトファクター)が浸透したのは、誰の業績でも数値化できて定量的に比較できるため、IF(インダストリーファクター)も同様にしたほうが良いのではないか?
- 優劣をつける指標ではないほうがよい
- 新たな指標は縁の下の力持ちの引き上げが目的
- ソフトウェア利用促進のための貢献を論文化できれば現在のIFベースの評価が可能?

- 評価システム作りを民間で担うにはどうすべきか?
→JACM(日本計算力学連合)がシステム作りを行う
→各学協会、社団法人が動き出す必要がある:表彰を行うなど
- 計算工学会では産業界における計算工学の発展に貢献した人の表彰を開始した
- ソフトウェア利用振興活動のための便利ツール:MateriAppsが文部科学大臣表彰科学技術賞(科学技術振興部門)を受賞。振興活動の表彰は可能
- 学界での評価と一般向の評価は違う

- FOSUS（計算科学振興財団）の類似組織をソフトウェアに対しても創設できないか
- 「エコシステム」は大事なキーワードなので追加説明が必要
- 提言に図を入れるか否か（入れるべき）
- 提言は20ページ以内にまとめる。詳細は付録で説明

(3) 今後の活動について

- ・本年度中に提言をまとめる方向
- ・シンポジウムは無理に開催しない
- ・小委員会に講師を招いて講演をお願いし、提言(案)で深掘り、補強すべき点について議論する
 題目：人材評価の課題についてなど
 可能であれば成功事例ではなく報われなかった功労者からの話を聞きたい
- ・次回小委員会は9月頃を予定

配布資料

資料1：議事次第

資料2：前回議事録

資料3：提言（案）

資料4：第二回小委員会での議論の内容（案）